

JMRC 東京ラリー一部会 役員・運営委員会 議事録

開催日: 2023 年 6 月 20 日(火) 20:00~21:40

場所: ZOOM によるオンライン会議

参加者: 17 名、敬称略(クラブ)

宮城部会長(TR-8)、宇田川副部会長(TR-8)、後藤副部会長(MSCC)、会計安田(FQRC)、渡辺(TR-8)、下村(TR-8)、榎田(NASCH)、森川(NASCH)、草加(UTAC)、高橋(UTAC)、東(UTAC)、大川(かちかち山)、黒田(シナモン)、松井(ウエルパインモータースポーツ)、河野(TMSC)、桑原(スフィア)、事務局高梨(RSCC)

議事

●上級救命講習会の今後について

5 月 14 日(日)開催の第 19 回上級救命講習会、14 名参加にて無事終了したが、過去 10 回平均の参加人数が 17 人、うち、東京ラリー一部会登録のクラブ員が 7 人と少なく、今後、東京ラリー一部会で開催していくのか否かを議論。

宇田川副部会長より、別紙「上級救命講習会の存続について」に沿って、現状の説明と問題提起があり、今後どうしていくべきか意見交換した。

(草加)

上級救命講習会は存続していくべき。自分が危険な経験がないと、安全意識はどうしても他人事に思いがちになる。何らかの強制力か、講習会を受けやすい環境を整える事が必要。当部会の上級救命講習会に参加するには、認定証有効期限3年に 1 回受講を義務付けや、当部会登録クラブ員は受講料を無料にする等の優遇措置が必要ではないか。

(高橋)

学生でラリーに出ている人は殆どおらず、学生にモチベーションが無い。ダートラやジムカーナ等、主催団体もばらばらなので、規則で義務付けるのも難しい。

(東)

全日本でもビデオ配信している救命講習を受講するよう規則にしているイベントはあるが、真面目に受けない人がいるのが事実。告知方法をツイッター等、若い人向けに行える方法を検討すべき。

(河野)

一日かかる講習会はやはりハードルが高いので、半日で終わる講習会を考えるなど、受講しやすい環境を整える事が必要ではないか。

(森川)

自宅の近くで開催される東京防災救急協会の上級救命講習会を受講すれば、当部会から補助金を支給する形にすると、受講者が増えるのではないか。

(桑原)

過去に受講した人にメールを入れる際、認定証有効期限が切れる人にはそれも周知しては如何か。

(松井)

当部会登録クラブ員、且つラリー関係者主体では母集団が少なく、参加者増加は実質困難と思う。当部会での単独ではなく、モータースポーツ全体として母集団を大きく、他組織と連携して関係者の理解と重要度をアップして義務化していくのはどうか。

(大川)

実戦のラリーに則した、SOS 掲示時の対応や、怪我人の救出方法を教えるのは如何か。

(黒田)

上級救命講習会は当部会で引きつづき開催していくべき。データを見ると、参加者のうち当部会登録クラブ員は減少ではなく、横ばい状態である。自分も周りに声をかけているが食いつきは悪い。当部会登録クラブ員は無料にする等を考えるべき。

(宇田川)

2004 年に当講習会発足時、参加費を議論した際、無料化の話も出たが、公的な資格なので自分の金と時間を使って受講するモチベーションを重要視したことと、無料にすると不真面目に当日ドタキャンする人が増えることを危惧した。

(草加)

受講する意識や土壌が無い今、無料にする等の環境を整える事は必要ではないか。

(後藤)

受講人数を増やすには、当部会登録クラブ員は無料にすることや、年 266 回も開催されている東京防災救急協会の上級救命講習会を受けたら補助金を出す等、受けやすい土壌を作るべき。

(高梨)

自分は自分に必要な知識だと思うので自主的に毎年受講している。その意識の無い他の人にどう働きかけるのか、現状自分にもアイデアが無い。

(安田)

(安田さんが地元の人にも働きかける関係上)当部会以外の参加者は、文京区在住の方が多い。そもそもラリーに興味を持ってもらうために始めた講習会であり、特に若い人への告知方法を考えるべき。

(榎田)

ラリージャパンに行くオフィシャルにオフィシャル講習会と普通救命講習会(半日)をセットにして受講いただいでどうか。もしくは講習会と BBQ(客寄せのレジャー)を組み合わせても可。多摩地域での開催の可能性については、森川さんとも協力して検討するが、継続性には疑問符が付く。意識の問題でもあるので、ラリーに限らず、ジムカーナ、ダートラ、サーキットでの告知を行ってはどうか。

(宇田川) 参考: 多摩地域での過去事例

第3回 上級救命講習会 2006/3/26(日) あきる野市中央公民館 参加:9名

- ・依頼経路: 故井上部会長(蒲田消防団 副団長) →蒲田署 →多摩地域の消防署
- ・消防署では駐車場が無いので、公民館で開催した
- ・消防署が公民館に来て、機材準備をしてくれた
- ・講師:東京防災救急協会 補助員:消防署員、故井上部会長
- ・いつもの会場(蒲田署)ではなく、とても手間がかかったが、参加少数(9名)で、以降やらなくなった

(宮城)

現状 JAF は、火災発生、命の危険があると思われる事故以外は、基本的に手を出さずと言っており、FIA のEV車の問題もあって手を出しにくい雰囲気になっている。また、各ラリーシリーズの、当講習会の受講義務・規則化も難しい。部外者の受講者を当部会登録クラブに勧誘しては如何か。結論として、上級救命講習会は「継続」だが、受講者が増える方法を皆で考えていきたい。

(議題提起者 宇田川)

当講習会は、登録クラブ員の参加が少数にて、当部会で開催する意味に疑問があったが、本会において皆様から大切なご意見を多数頂戴し、部外者の多数参加も有意義であることが判った。今後、新たな視点とモチベーションで、参加費も再考しつつ、継続開催していく。

●その他

・WRC オフィシャル

宮城部会長より西井 JMRC 関東部会長を通じ、MOSCO に問い合わせ中。

・12月に開催予定のラリー体験会

午前にBライセンス講習会を行い、午後にラリー体験会というスケジュールは変更の余地はあまりないが随時アイデアを募集する。

以上

議事録: 事務局 高梨